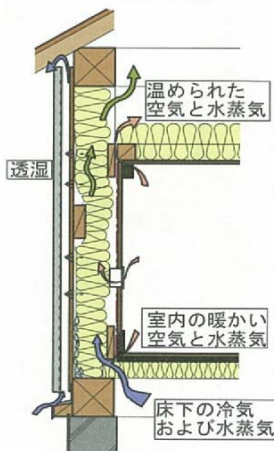
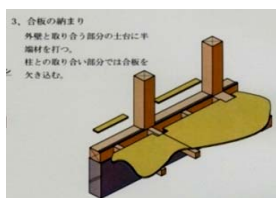


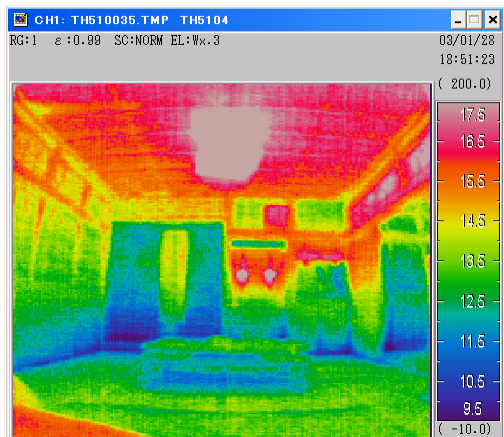
外壁防湿シート別張り100mm断熱
(ボード状防水層)



新在来木造構法マニュアル2002から
壁内に気流が流れ断熱材が効かない



合板で気流止めをする図



床壁の接点が青く低温に出るのは床下の冷気が壁内に引き込まれるから。

長期優良住宅の温熱等級4 計算値だけのOKでは断熱材が効かない危険

◆QPEXの引き合いが大幅増加しています

新住協会員外の方から熱計算プログラムQPEXの引き合いが毎日のようにきています。理由は長期優良住宅の申請書類、温熱等級4を計算するためのようです。

◆「気流止め」の問い合わせ

一方で、「気流止めのことが書いてある資料を欲しい」という問い合わせも時々あります。当初、何も考えずにマニュアル2002を案内していたのですが、再び同じ問い合わせを受けたときにふと疑問を感じました。

◆気流止めを施工したことのない工務店・住宅会社とQPEXの引き合い。

もし、これが同一方向の仕事をしている人たちだったら、QPEXで次世代基準を満たす計算書を作成し、合格を受け、施工は「気流止め」なしということになります。

充填断熱で大事なことは気流止めです。(右写真を上から下へ眺めれば理由がわかる)

つまり、材料は次世代省エネ基準を満たすモノを使っているが、性能は発揮されない施工方法ということになります。

これでは、次世代省エネ基準施行の前時代に逆戻りということじゃないですか？

新住協の外部のことではありますが、おかしなことになっていないかと、そんなことを心配しています。

◆オープンセミナー「そうだったのか高断熱住宅」

オープンセミナー「そうだったのか高断熱住宅」は、断熱材が効く効かない、なるほどそうだったのかと思わせる内容で、まさしくそういう方々を対象とした勉強会。去る8月7日の京都では40人の受講者がありました。皆さん初顔の人ばかりで、そういう点では「基本」が浸透していいことだと思います。

Q値計算は正しい施工がなされてはじめて評価されるもの。

